

## 大阪府立たまがわ高等支援学校 令和3年度 第2回 学校運営協議会の概要

- [1] 日時 令和3年12月23日(木)午後2時00分～3時30分
- [2] 場所 大阪府立たまがわ高等支援学校
- [3] 出席 協議会委員5名 事務局員11名
- [4] 内容
  - 1 開会の挨拶
  - 2 事務局から説明
    - (1) 令和3年度「学校経営計画」進捗状況について
    - (2) 「学校教育自己診断」について  
「授業アンケート」について
    - (3) 報告事項
      - ①進路状況について
      - ②生徒指導について
    - (4) その他
  - 3 協議
  - 4 閉会の挨拶
  - 5 諸連絡

### 議事録(抄録)

≪議事録中、●は協議会委員です≫

#### 1 開会の挨拶 (校長)

コロナの状況がグリーンステージになり、懸念されていた「たまがわフェスティバル」も体育の部、文化の部とも少し形を変えて開催できた。職場実習も滞りなくできた。しかし、予断を許さない状況に変わりはなく、本校も年明けに修学旅行、入学者選抜があるので無事に行いたい。

また、本校でも9月2日に生徒が陽性になり休校になった。これからも十分気を付けたい。本日は忌憚のないご意見をお願いいたします。

#### 2 事務局から説明

##### (1) 令和3年度「学校経営計画」進捗状況について (校長)

現時点での状況をお伝えします。

外部との連携について。(1) 各関係機関との連携の実績は途中経過ですが、このまま順調にいけば目標をクリアできそう。(2) は新たな交流方法を探っている。9月まではなか

なかコロナでやりたいこともできなかったが、職業科で制作したマドレーヌなどを共生の設置校で販売するなど、学校同士の交流に広げていきたい。(3) 地域に根ざした教育活動について、中学校教員向けの公開授業では約 60 校の先生に来てもらった。中 3 生対象の体験授業では、中学生が 128 名参加した。

次に、進路指導と社会的自立をみずえた教育活動について。(1) 新規実習受け入れ事業所は 11 月現在 37 社開拓した。卒業生の巡回相談は、コロナの状況がグリーンになってから全員完了した。しかし、離職者は 12.5%と例年より多めに推移している。(3) キャリアプランニングマトリックスは実現できるところまできている。(4) Tノートの活用は三者懇談で保護者に確認してもらっている。(5) 生徒会活動では、夏休みに販売実習室のテーブルやカウンターを作り替え、壁を塗りなおすなどリフォームを行った。2 日間で延べ 50 人の生徒が参加した。寄贈された家具の設置も検討中。週 2 回の生徒会活動も定着しつつある。部活動では、新入生の見学と体験が夏休み前にやっとできた状況で、現在約 70%の加入率になっている。4 月から定着できなかったことが残念。

校内体制の確立について。(2) 学校経営推進費は獲得できなかったが、校長マネジメント費で電子黒板を購入し、会議室で活用している。各ホームルーム教室に設置したいと考えている。(3) ワークライフバランスは先生方も意識しており、定時退庁にも協力してもらっている。

## (2) 「学校教育自己診断」について (校長)

質問内容は昨年度と同じ。期間は 11 月 30 日から 12 月 10 日、自宅に持ち帰り、無記名で記入する。提出率は 67% (昨年度 65%)、教職員は昨年度同様 100%。第 3 回の協議会で結果をお知らせします。

## 「授業アンケート」について (教頭)

期間は 11 月 30 日から 12 月 10 日、学校で生徒へ配布して、自立活動やホームルームの時間に実施。結果は全ての教科で授業満足度が上がっていた。第 3 回の協議会で詳しくお示しする。

## 質問

- 委員 授業アンケートは、支援学校だけではなく全部の高校でやっているのか。  
校長 そうです。
- 委員 学校教育自己診断と授業アンケートの項目でかぶっているところもあるが。  
校長 似ているところはある。
- 委員 生徒名が入っているのは何故か。  
校長 専門教科がそれぞれ違うので、個別のものになっているため。

### (3) 報告事項

#### ①進路状況について（事務局員）

今年度の進路状況について、まずは職場実習の状況について。今年はコロナ2年目ということでどうなるか不安だったが、1、2年生は6月と11月にそれぞれ予定通り実施できた。全員が体験できてよかった。3年生については、6月は予定通りできたが、9月は夏休み中のコロナ第5波により約半分の生徒が予定通り実施できなかった。実施できなかった生徒は1カ月以上遅れて11月以降にスタートした。現在、内定と内々定が40名程度。1月以降も職場実習に行く生徒がある。昨今の頃は実習先がどんどん減っていく状況だったが、今のところは実習先がない、ということはない。実習の状況が改善できていると感じている。また、今年は製造業が増えていると実感している。去年は2～3名だったが、今年は10名を超える状況。また、厨房補助も二桁になり、飲食店が戻ってきている。軽作業や倉庫作業やダイレクトメールの作業なども増えている。一般就労をめざす生徒もあるが、福祉事業所で頑張る生徒もある。

#### ②生徒指導について（事務局員）

今年度、指導案件は暴言暴力7件、迷惑行為1件。社会で許されないことなので、本人への説諭はもちろん、具体的なイライラに対する対処法を一緒に考えていくことも指導の中へ取り入れ、現在も継続して取り組んでいる。通学トラブルは、男子生徒が気になる女性に握手を求める、背後に立つなどし、当該の女性が駅員さんに訴えて発覚した。保健指導を継続している。授業態度不良、窃盗、ゲームセンターで財布からお金を抜く、などもあり、警察と連携して説諭と指導をしてもらい、学校でも引き続き指導している。喫煙指導1件、SNSトラブル1件、画像を送る、駅のトイレで性交渉などの異性トラブルもあった。保護者との連携により、時差通学、性に関する学習を継続。いじめ2件、嫌がらせ1件、遅刻、寄り道が4件、その都度指導しているが、その他にも特別指行っている。

いじめは、発覚したその日に校内でいじめ対策委員会を行い、対応、指導、経過観察をしている。1件は3年生で、卒業まで毎日の見守りを継続する。

生徒会活動では自発的な活動呼び掛けている。週2回程度継続して生徒が自分たちで集まるミーティングをしている。校外活動はできていないが、校内を盛り上げたいという生徒たちの気持ちを「生徒協会」として生徒会と並行して進めている。

SSWについて、カンファレンスシートを用いて外部機関との相談が必要な場合は対応してもらっている。法務省管轄の相談機関とも連携を考えている。LGBTについても外部の相談機関を模索してもらっている。

部活動は、昨年活動していなかった生徒が参加するようになってきている。試合で成績を残している部活もある。

#### (4) その他

特になし

### 3 協議 (司会を●委員に)

司会 : ご意見をお願いします。

●委員 : 1年後の離職者が昨年より上回っているが、これは全国的に高くなっている。コロナ以降、実習ができなくなっていることが要因と考えられる。実習なしでマッチングし、仕方なく就労しているケースがある。今年度は実習が順調ということだが、実習に制限がかかるとマッチングがうまくいかないの、1日でも実習をさせたい。オンラインでの面談や体験もあるが、ミスマッチを避けたい。コロナが収まればよいが、制限がかかるようであれば何か考えなければいけない。

校長 : 本人、保護者の就労への気持ちと意欲が10年前に比べると低くなっていると感じる。何が何でも、という熱が保護者、生徒とも下がっている。それが離職率につながっているようにも感じる。たまがわでベルトコンベアにのって就職した、というイメージが強く、合っていないからやめる。

●委員 : 定着はマッチングとその前段階がある。働きたいという気持ち下がっている。

●委員 : 会社でも以前より何が何でも就職、という実習生が減っていると感じている。就労意欲を上げて、就労ができればよいが。

司会 : 離職した生徒の様子はどうか。会社から辞めさせられるのか、本人からか。

事務局員: 働きぶりが悪くなってきた段階で相談があり、会社は就・と連携してなんとか辞めないように工夫してくれている。シフトを変える、部門を変える、本人の要望を聞く、など。本人は、一度緊張の糸が切れると修復が難しく、アドバイスや助言を受け入れられない。マッチングの点は、本校では実習なしや短い実習で終わることはない。3年生は2週間で2回、3回とやっているの、ミスマッチは考えにくい。ある生徒は、パンやクッキーを作るのが好きでパン工房に就職できたが、4月当初はとても良かったけれど、パートさんと一緒に働く職場で、ある人から言われたこととほかの人から言われることが違う、指示の出し方が違う、といった人間関係でつまづいて退職した。うまくいったように見えたが、それも含めての仕事、と指導もできさしていなかった。自分ががんばるだけでなく人間関係を含めて仕事だと指導したい。また他のある生徒は、在学中は将来プロ野球選手になりたい、と、もやもやしたまま就職した。働き始めてから、やっぱり自分は人をハッピーにさせる仕事をし

たい、着ぐるみに入ってショーに出たい、と真剣に考えて退職した。

司会　　：退職した卒業生と仕事を続けている卒業生について違いはあるのか。関連性はあるか。

事務局員：はっきりとした違いはない。

司会　　：次に、共生推進教室について。現在の生徒の学習活動について聞きたい。大阪府が力を入れて作ってきたが、設置校に「支援学校のほうが適切ではないか」という意見が多く、支援学校から支援をしてほしいと要望がある。

事務局員：現状は販売、清掃、職業分野の授業を共生だけで行っている。現在の状況では交流が難しい。出前授業など特別な授業は一緒に受けることもある。課題は、どちらの学校が中心なのか、生徒によってもさまざま。週1回たまがわに来るのがしんどい、反対に設置校でついていけなくてたまがわでほっとする、など。設置校の先生へ伝えているが、設置校での支援について悩んでいるのが現状。

校長　　：中学校の支援学級に在籍している生徒のうち、中学を卒業して支援学校に進むのは3割で、7割は違う学校へ進学している。高校が定員割れしていることや、私立の人員確保などによって発達障がいのある生徒を積極的に受け入れている。以前は少なかったが、支援学校中学部の卒業生がたまがわへ入学する人数が増えている。生徒層が違ってきている。一般の支援学校中学部からたまがわへ、たまがわへ来ていた生徒は一般の学校へ行っている。自立支援コースは人気がある。共生は必ず週1回支援学校へ行かなければいけないことで、ニーズが少なくなっている。

●委員　：職リハに入校する人は15年前は7割が支援学校の卒業生だったが、今は2割で、残りは一般校から入校してくる。生徒たちは支援の経験がない先生方の学校へ行っている印象。

●委員　：高校卒業資格が欲しい、と、子どもの能力に関わらずこだわっている人が多い。支援学校は自立活動があって、子どもに合わせて考えてもらえるが、手帳を持っていることを隠してみんなと一緒に一般校へ行くことを希望している。

●委員　：支援教育の専門性がない先生が指導するのが恐ろしい。保護者の中で手帳へのこだわり、それぞれの価値観があるが、生き方に関わることなので、サービスを受けることを奪ってしまうことの怖さを感じる。

司会　：大阪府の障がい児教育が理想から離れている、と言われている。支援学校の先生方には、高校の先生方へ、障がいに対する支援の仕方をこまめに新たな交流としてお願いしたい。

●委員　：Tノートについて。保護者、支援者の支援の腕を磨くことも必要。子どもが一人で自分の問題を見つけて解決するのは難しいので、その接点がTノートなのでは。保護者も参画するようにすれば中身のあるものになるのでは。

●委員　：保護者同士で連絡帳の話題になり、たくさん書く人、書かなくていいと思っている人、いろいろだった。子どもが読むから書きにくい、電話するほどの内容ではないが書く人、など。

●委員　：三者懇談も前半と後半に分けて本人がいないところで話ができれば。

校長　：SNSなどで先生がつぶれるケースがある。返事があることが当然の風潮があり、大阪府もSNSで保護者とつながるのは全面的に禁止している。連絡帳か、必要があれば電話で。小さいところでつぶせば火種にならないが、今はなかなかそれができない。ダブルスタンダードはよくないので、懇談の仕方については考えてもらう。

#### 4 閉会の挨拶（校長）

ありがとうございました。みなさんのご意見から良い影響をいただけます。子どもをはさんでよりよい成長をしてもらいたい。学校も受け止めて改善したい。

#### 5 諸連絡（司会）

第3回は3月ごろを予定。日程調整するのでお願いします。

以上